



1人1台パソコンブースが与えられます。

沖縄キリスト教学院大学大学院 異文化コミュニケーション学研究所

Okinawa Christian University
Graduate School of Intercultural Communication

Guide Book



■ 修士生の修士論文タイトル

[異文化交流領域]

- AAAと断酒会に参加しているアルコール依存症者のどん底体験とリカバリーのプロセス[2015年度]
- 自動車のマーケティング戦略と車の広告表現の文化差—日本とアメリカの比較—[2014年度]
- 沖縄社会における健康と文化に着目した異文化コミュニケーション学的研究—近代化と文化変容にさらされる沖縄社会を読み解く視座—[2014年度]
- 介護施設における利用者と介護者との世代間コミュニケーション[2014年度]
- 多文化共生をめざすカリキュラム開発の視点と課題—沖縄の公立小中学校における日本語教室の実践から—[2012年度]
- 自動車広告コミュニケーションに関する記号論的分析:日米比較[2012年度]
- 青年海外協力隊の途上国における異文化適応と帰国後の再適応[2012年度]
- 戦後沖縄のガリオア留学生の異文化接触と帰国後の郷土貢献[2011年度]
- ブラジル人児童が日本の公立学校とブラジル人学校で直面する異文化コミュニケーションの問題:教師へのインタビュー調査を基に[2011年度]
- バリ島のバリアガ民族における近代化と風葬式をめぐる一考察[2010年度]
- 大琉球キリスト教史 —国際関係から見た琉球王国時代のキリスト教宣教に関する一考察—[2010年度]
- 沖縄における日本と米国の言語政策に関する一考察[2010年度]
- シンガポールのことばと社会に関する研究 —“Speak Good English Movement (2000)”の影響—
- 沖縄の混血児の文化的アイデンティティ[2010年度]
- 日本の英米文学教育における現状と課題—グラウンデッド・セオリアプローチに基づいた学生の「語り」の分析—[2009年度]

[英語教育領域]

- Decolonizing the High School in Okinawa: A Review of Self-perception and an Argument for Identity Formation [2017]
- A Comparative Study of EFL Vocabulary Acquisition in Japan: Narrow Reading vs. Reading plus Vocabulary-Enhancement Activities [2017]
- Phonics as a Developmental Scaffold for Spelling and Pronunciation Skills in Japanese English Language Learners [2016]
- Okinawa as McDonaldized Playground: A Critical Reading of Neoliberal Propaganda[2015]
- Analysis of the Motivation of High School Students in Okinawa to Learn English [2012]
- Research on and Suggested Revisions of Special Programs for English Study for Japanese Students [2012]
- Learner Autonomy in High School English Education: A Study of Okinawan High School Students' Awareness of Autonomy [2011]
- English Reading Instruction for Communicative Competence: Through Use of Literature in Junior High School [2011]
- A Study of the Vocabulary Breadth and Depth of Japanese University Students [2011]
- A study of Bettelheim's Translation of the Holy Bible into the Ryukyuan Language [2010]

■ 教育・研究を支援するさまざまな制度

■ 教職課程 (英語教育領域のみ)

取得できる教育職員免許状の種類	免許科目
中学校教諭専修免許状	英語
高等学校教諭専修免許状	英語

専修免許状の取得には、次の3つの条件を充たさなければならない。

- (1) 修士の学位を有すること。
- (2) 大学院に在学し、所定の科目、単位数を修得すること。
- (3) 英語(中学・高校)の一種免許状を取得済みであること。

※大学院進学予定者及び大学院1年次在籍者は、教員採用試験に合格した場合、修了まで教員候補者名簿への登録を延期することができます。(年限2年以内)

■ 学内奨学金

名称	金額
沖縄キリスト教学院後援会	年額授業料の50%免除
山里恵子同時通訳奨励	50,000円給付
ちゅういたしきだしき	100,000円給付

■ 昼夜開講制 (平日18:45~21:55、土曜日13:00~)

社会人が学びやすい環境を提供しています。
(1年次は週3日~、2年次では週1日~の平日夜間登校で修了を目指せます。)

■ 科目等履修生

■ 長期履修制度

■ 研究生制度

■ お問い合わせ

沖縄キリスト教学院大学大学院

〒903-0207 沖縄県中頭郡西原町字翁長777番地

■ カリキュラムについて

教務課 TEL 098-946-1253

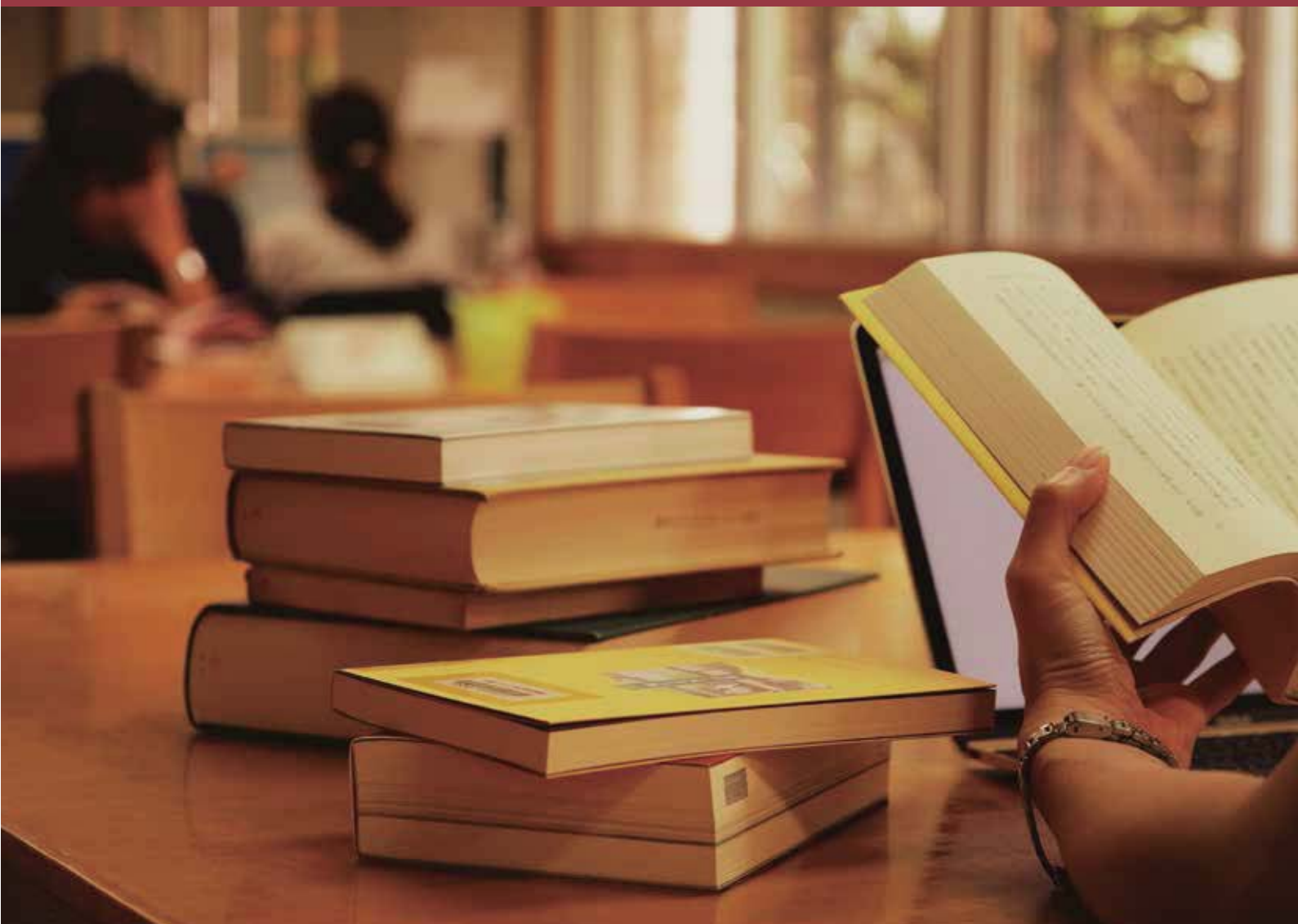
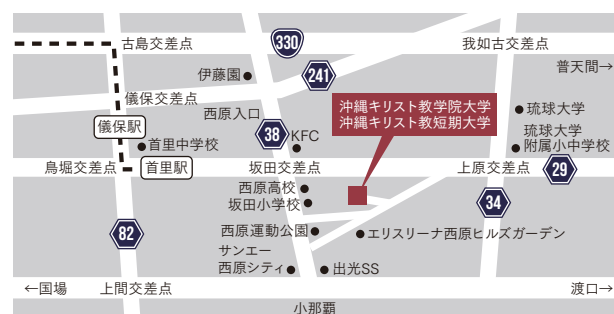
■ 入試について

入試課 TEL 098-945-9782

FAX 098-946-1241 (代表)

E-mail grad@ocjc.ac.jp

URL http://www.ocjc.ac.jp



研究領域 異文化交流領域 / 英語教育領域

Fields of Study Intercultural Communication / English Education

沖縄キリスト教学院大学大学院< 修士課程 >

異文化コミュニケーション学研究科 異文化コミュニケーション学専攻

研究科理念

本大学院異文化コミュニケーション学研究科は、批判的思考で意識改革をおこない、多様性を尊重し、弱者の人権を守るために行動する責任ある市民を育てることを理念とし、プロの教育者と異文化コミュニケーターの育成を目指しております。対話を通した学びの共有の中で、コミュニケーション力や批判的思考力、教育法や表現力など様々なスキルを取得するためのカリキュラムが組まれているのが本研究科の最大の特徴です。

教育・研究目標

沖縄キリスト教学院大学大学院は、県内唯一のキリスト教高等教育機関として、その建学の精神を継承し、社会に貢献することを目的としています。本大学院は、グローバル化、情報化時代に即し、異文化交流や英語教育の場におけるコミュニケーション能力についての教育・研究を行います。本学大学院での教育・研究の主たる目標は、学術的理論と実践を結びつけるところにあります。つまり、大学院生は思考の複眼性・柔軟性を獲得して自分のテーマに沿って研究・調査を行い、その結果を分析し考察するだけでなく、社会の中で実践していくことが求められます。本大学院は、国際交流能力を備えた専門的職業人の育成と、中学・高等学校の現職教員のリカレント教育及び研究指導も視野に入れた理論と実践が一体化する特色ある英語教育の構築を目指します。



2013年度(第6回) 大学院講演会 講師: Dr.C.Douglas Lummis (本学客員教授)



2014年度(第7回) 大学院国際会議 基調講演: Jon Mitchell (ジャーナリスト)



2015年度(第8回) 大学院国際会議 基調講演: John Whalen-Bridge (国立シンガポール大学准教授)



2016年度(第9回) 大学院講演会& ワークショップ 講師: Marcos Benevides (桜美林大学専任講師)

異文化コミュニケーション学研究科の特色と魅力

異文化交流領域の紹介

「異文化理解を含めた セレンディピティ(serendipity)の発掘」

異文化交流領域は、2008年度の開校から2018年度までに15名の修士生を輩出しました。本学大学院の特徴は、社会人受入れ(=講義開講時間18:45~21:55、1日2コマ設定。1年目は、週3日~4日出席は必要!)です。修士生のうち6名は社会人(社会人留学生1名含む)でした。実社会に出た後、さらに大学院で研究を希望する人々を積極的に受け入れたいです。修士論文作成で、とりわけ、比重を置くのは調査研究です。もちろん、英語文献挿入も重要です。「人間文化を本質的に理解し、多岐な国際交流能力を身につけた高度専門人及び研究者の養成。日本人の異文化理解をめぐる諸問題を研究。」といったスローガンで、皆様をお待ちしています。

修士生の声

教員の方々に質問をした際には、時間や場所を問わず丁寧に、そして情熱を持って対応してくださり、職員の方々も私の数々の相談や心配事に対して手厚くサポートしてくださいました。修士論文では、普天間基地返還に関連する土地開発の状況を、アメリカ人社会学者ジョージ・リッツァ考案のマクドナルド化論を用い論じました。様々なプロパガンダを分析していく中で、批判的思考を養う教育制度の必要性を改めて感じました。日本の英語教育現場においても、規則や教材を批判的に分析し、多角的な議論を行えば良いと思います。修了後は本学非常勤講師として英語系科目を担当しており、学生達と接している中で、大学院で学んだ様々な理論と結びつく瞬間がある度に、彼らを理解するための大きな助けとなっています。本大学院で学ぶ皆さんと同志として、沖縄や日本、国際社会をより良くする為に、切磋琢磨しあえることを楽しみにしています。

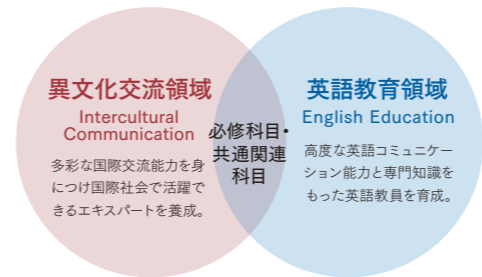
英語教育領域 2016年 3月修了 砂川 真紀

アドミッション・ポリシー

- ① キリストの教えに基づいた平和と共生の道を模索できること。
- ② 沖縄、日本、アジアのみならず、世界全体を視野に入れ事象を研究できること。
- ③ 異文化コミュニケーションに興味を持ち、学位論文を執筆するための能力と展望を備えていること。
- ④ 英語教育の課題に問題意識を持ち、その解決に取り組めること。
- ⑤ 学術研究を通して社会に貢献する意欲のあること。

カリキュラム Curriculum

カリキュラムの特色



「異文化交流」と「英語教育」

本研究科は「異文化交流」と「英語教育」の2つの領域から成り立っています。「異文化交流領域」では、多文化共生への理解を深め、高度なコミュニケーション能力を身につけた人材を育成し、「英語教育領域」ではグローバル化時代を担う英語教員の養成を目的としています。カリキュラムの特色は、院生がそれぞれの研究テーマに合ったリサーチ方法を学ぶことができる「Research Project I & II」が1年次前後期に必修科目として配置されていることです。それにより、初年度から修士論文執筆を見据えて研究計画を立てることが可能です。「共通関連科目」においても、修士論文のテーマ及び修了後の進路に合わせて両領域から自由に科目選択ができるように科目が配置されています。

講義内容

必修科目	共通関連科目
キリスト教平和学特論/金 永秀 Research Project I / Daniel Broudy Research Project II / Daniel Broudy	国際関係特論/新垣 誠 Communication in Situations of Unequal Power Systems and Discourses of Social Inequity 社会言語学特論/新垣 友子 国際理解教育特論/新垣 誠 日英翻訳実践/A.David Ulvog Theories & Practices in Western Rhetoric/Daniel Broudy 英米文学特論/浜川 仁 (沖縄キリスト教短期大学教授) 地域研究特論(Okinawan Studies)/A.P.Jenkins(沖縄芸術大学名誉教授) 非言語コミュニケーション学特論/兼本 円(琉球大学教授) 健康科学特論/近藤 功行 死生学特論/近藤 功行 キリスト教学特論/金 永秀

領域コア科目	
異文化交流領域 比較人文学特論/近藤 功行 異文化コミュニケーション学特論 I / 仲里 和花 異文化コミュニケーション学特論 II / 仲里 和花	英語教育領域 英語教育学特論 I / Christopher Valvona 英語教育学特論 II / Christopher Valvona 英語教授法特論/大城 直人

修士論文指導	
異文化交流領域 異文化コミュニケーション学特別演習 I / 近藤 功行・新垣 誠・仲里 和花 異文化コミュニケーション学特別演習 II / 近藤 功行・新垣 誠・仲里 和花	英語教育領域 英語教育学特別演習 I / 大城 直人 英語教育学特別演習 II / 大城 直人 応用言語学特別演習 I / Daniel Broudy 応用言語学特別演習 II / Daniel Broudy

教員紹介

--	--	--	--	--

専攻	異文化コミュニケーション学専攻			
	異文化交流領域		英語教育領域	
領域	異文化交流領域		英語教育領域	
履修モデル	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4
専攻必修 3科目 6単位	キリスト教平和学特論 (1・前) Research Project I (1・前) Research Project II (1・後)			
領域必修 3科目 6単位	比較人文学特論 (1・前) 異文化コミュニケーション学特論 I (1・前) 異文化コミュニケーション学特論 II (1・後)		英語教授法特論 (1・後) 英語教育学特論 I (1・前) 英語教育学特論 II (1・後)	
授業科目 選択必修 5科目 10単位	国際関係特論 (1・前) 社会言語学特論 (1・後) Communication in Situations of Unequal Power (1・後) 非言語コミュニケーション学特論 (1・後)	国際理解教育特論 (1・前) 地域研究特論(Okinawan Studies)(1・後) 日英翻訳実践 (1・後) Communication in Situations of Unequal Power (1・後)	異文化コミュニケーション学特論I(1・前) 国際理解教育特論 (1・前) 社会言語学特論 (1・後) Theories & Practices in Western Rhetoric (1・後) 日英翻訳実践 (1・後) 英米文学特論 (1・後)	異文化コミュニケーション学特論I (1・前) 国際理解教育特論 (1・後) 社会言語学特論 (1・後) Theories & Practices in Western Rhetoric (1・後) 日英翻訳実践 (1・後) Communication in Situations of Unequal Power (1・後)
	キリスト教学特論 (2・後) Systems and Discourses of Social Inequity (2・前)	死生学特論 (2・後) Systems and Discourses of Social Inequity (2・前)	健康科学特論 (2・前) Systems and Discourses of Social Inequity (2・前)	キリスト教学特論 (2・後) Systems and Discourses of Social Inequity (2・前)
論文指導 2科目 8単位	異文化コミュニケーション学特別演習 I (2・前) 異文化コミュニケーション学特別演習 II (2・後)		英語教育学特別演習 I (2・前) II (2・後)	
期待される進路	国内外の国際機関、NPO、NGO、JICA、マスコミ、国内外の大学院博士課程へ	県や市町村の国際交流窓口、一般企業、マスコミ、通訳・翻訳	中学校・高校の英語教員、国内外の大学院博士課程へ	通訳・翻訳、国内の教育機関や一般企業、国際交流団体